

# 参考 行政サービスの充実をめざして

## 北九州市の先進的な政策・充実した政策

### 環境・産業・経済

#### ● 海外水ビジネスの推進

本市は、20年以上にわたる国際技術協力で培った相手国との人的ネットワーク、ノウハウ等を活かして、海外水ビジネス展開を図っています。

全国に先駆け設立した「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を軸に、官民が連携し、カンボジア、ベトナム・ハイフォン市、インドネシアなどを対象に、計画づくりから設計、建設、維持管理、事業運営までを含む海外の水ビジネス案件の受注を目指しています。



#### ● ベトナム社会主義共和国ハイフォン市と姉妹都市協定を締結

本市は、平成26年4月、ベトナム社会主義共和国ハイフォン市と姉妹都市協定を締結しました。ハイフォン市は、人口190万人で、ホーチミン市、ハノイ市に次ぐベトナム第三の都市であり、ベトナム北部最大の港湾都市として発展を遂げてきました。この締結により、両市にとってメリットのある交流を推進し、ハイフォン市のインフラ整備や都市環境の改善に貢献するとともに、アジアの活力を取り込んだ本市の経済成長につなげていきます。

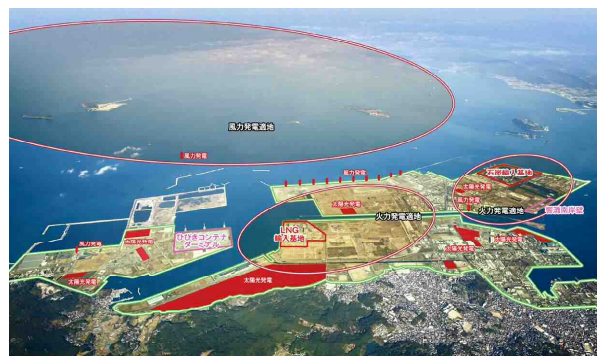


#### ● 日本貿易振興機構（ジェトロ）と連携協定を締結

本市は、北九州市新成長戦略推進の一環として、相互に有益な連携を強化し、地域企業の国際ビジネスへの支援を一層推進することを目的として、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）と連携協定を締結しました。ジェトロとの連携協定締結は政令市初で、世界55カ国70ヶ所以上の海外事務所ネットワークと海外展開の知見・ノウハウを持つジェトロとより強固に連携することにより、本市が取り組んでいる海外ビジネス事業の更なる推進が期待されます。

#### ● 地域エネルギー拠点化事業の推進

本事業は市民生活や産業活動などの地域を支える低炭素・安定・安価なエネルギーの供給を目指すもので、地域エネルギー拠点の形成は、市の成長を支える基盤として非常に重要となります。響灘地区（若松区）を中心に北九州市新成長戦略の主要プロジェクトとして取り組むもので、洋上風力発電や高効率火力発電所の立地推進、地域エネルギーマネジメントなどの具体的な取組みを進めます。



#### ● 産業用ロボット導入支援センターを開設

本市は、「産業用ロボット導入支援センター」を北九州学術研究都市「技術開発交流センター」内（若松区ひびきの北）に開設しました。ここでは、市内の中小企業の生産性向上を図るため、産業用ロボットの導入並びに活用支援を総合的に行い、ものづくりの街の競争力・技術力の強化を図っていきます。



## ● 日本最大級のインキュベーションスペース「fabbit（ファビット）」がオープン

平成 26 年 4 月、本市に日本最大級のインキュベーションスペース「fabbit（ファビット）」（小倉北区浅野）がオープンしました。この施設にはシェアオフィスを中心に、ライブラリや、IT スキルなどを習得できるスクール、様々なセミナー・ワークショップが行えるイベントスペースも併設されています。

また近年、急速に注目を集めている 3D プリンタなどのデジタル工作機器を備えるとともに、民間事業者による投資プログラムも用意されており、本市新成長戦略のリーディングプロジェクトである「ベンチャー企業の創出・育成」や「地元企業の製品開発支援」の推進が期待されます。



## ● 自転車走行空間（自転車レーンなど）の整備など自転車利用環境の向上

魅力ある自転車利用環境を創造し、過度なマイカー利用から自転車利用や公共交通への転換を促進することで、二酸化炭素排出量の削減を図り、低炭素型の交通体系を形成します。自転車走行空間（自転車レーンなど）の整備、コミュニティサイクル事業、自転車シミュレーターを活用してのルール・マナーの教育など、総合的な自転車利用環境の向上に取り組んでいます。

## 安全・安心

### ● 北九州市安全・安心条例を施行

本市は、安全・安心を実感できるまちを実現するため、北九州市安全・安心条例を施行しました。本市では、地域の皆さんが防犯や防災、青少年の非行防止など安全・安心に関する取組みを行っています。こうした取組みを続けながら、今後は新たな担い手を育てていき、活動を次の世代に引き継ぐことを目的としています。

条例では、市民、地域団体、事業者、学校、市それぞれの責務を明記し、また、「自転車の安全な利用」や「薬物乱用への対策」など新たな課題も盛り込んでいます。

### ● 防犯カメラの運用・活用

本市では、犯罪の抑止や市民の安心感の醸成を図るため、主要幹線道路と繁華街に 158 台の防犯カメラを設置し、市が定めた管理運用要領に基づき、運用を開始しました。

平成 25 年度は、防犯カメラの画像を警察等へ 217 件提供し、このうち 149 件が検挙活動や事案の立件・解決等に活用されました。また、犯罪発生件数についても、平成 24 年度に比べ、平成 25 年度は減少傾向になる中、特に市内最大の繁華街（小倉北区の魚町や堺町、鍛冶町など）では、前年比で約 16% と大幅に発生件数が減少しました。

このように防犯カメラについては、事件の捜査や事故の検証とともに、犯罪の抑止にも一定の役割を担っており、今後も防犯カメラの適切な管理運用に努めるとともに、警察との連携を強めながら安全で安心なまちづくりを推進していきます。

### ● ヤフー株式会社と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結

東日本大震災を経験し、災害に関する情報をインターネットによって発信することの重要性が再認識されました。そこで、北九州市は災害に関する情報を迅速に提供するため、ヤフー（株）と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結しました。

これにより、ヤフー地図上への「避難所」等の表示や、避難勧告などの「避難情報」の配信がなされ、また、市のホームページ等がダウンした場合の情報発信手段が確保されます。

## ● 「子どもひまわり学習塾」事業

本市では、児童生徒が主体的な学習の仕方を身に付け、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るため、学校の希望を募り小学校3年生から6年生及び中学校3年生を対象に、放課後等に補充学習を行う「子どもひまわり学習塾」を実施しています。各校に学習指導員を配置し、週2回、1回当たり1時間程度の内容で、平成26年度は小学校31校、中学校11校で実施しています。

## ● 総合療育センターの建替えと(仮称)西部分所の新設

現在のセンターは、施設の老朽化や狭隘化が進み、障害児(者)の医療・福祉に対するニーズの多様化、拡大化に十分に対応できなくなっていることから、施設の機能充実を図るため、センターの建替えを行うとともに、新たに、八幡西区に(仮称)西部分所を設置します。

新しいセンターは、現在の診療科に、発達障害などに対応する児童精神科及び女性特有の疾病に対応する婦人科を増設した13診療科を設け、病床数165床で、平成30年度中の開所を予定しています。また、(仮称)西部分所は、より身近な場所で、ニーズに応じた療育の実施ができるよう、整形外科や小児科など5診療科を設け、平成28年度中の開所を予定しています。

## ● 市立八幡病院の移転・建替え

現在の八幡病院は、老朽化や狭隘化が進み、施設面に課題があることから、病院機能の充実を図るため、移転・建替えを行います。

新病院では、患者のプライバシーに配慮した病室など、患者の視点にたった療養環境を整備し、子ども・障害者・高齢者が快適に過ごせる病院を目指します。

また、現在、処置室や待合スペースを共有している救命救急センターや小児救急センターについては、受入者数によっては手狭となるため、それぞれ独立して整備します。さらに、道路に面した広い平面駐車場を設置し、屋外に診療や器材の搬入、駐車等に係る大きなスペースを確保することにより、災害医療活動の拠点性を高めます。開院は、平成30年度中を予定しています。

## ● 旧官営八幡製鐵所関連施設が世界文化遺産に推薦

政府は、本市にある「旧官営八幡製鐵所関連3施設」を含めた8県11市にまたがる23の資産を、日本の近代化に貢献した産業遺産群、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」として、平成27年の世界文化遺産登録に向け、ユネスコへ推薦しました。今後も、本市としては、「北九州市から世界遺産を！」をキャッチフレーズに、世界文化遺産登録に向け、関係自治体等と連携して取り組んでいきます。

## ● 北九州フィルム・コミッション

北九州フィルム・コミッションでは、映画やテレビドラマの撮影誘致・支援を積極的に進めており、「映画の街・北九州」という新たな都市ブランドを確立する取組みを行っています。平成25年度の活動成果は、撮影誘致・支援した作品として、映画「黒執事」やテレビドラマ「MOZU Season1 ～百舌の叫ぶ夜～」など計26本(映画5本、TVドラマ21本)と、平成12年の設立以来、過去最高を記録しました。

また、撮影隊は、長期間市内に滞在して撮影するため、宿泊費や飲食費など直接経済効果は、過去最高の3億1,044万円と、地域経済に大きな影響をもたらしました。

今後も撮影誘致・支援に注力し、フィルム・コミッションの成果を広くまちづくりに活かし、まちなぎわいの創出を図ります。



## ● スタジアム整備事業

都心部に人が集い、にぎわいあふれる北九州市の創出を目指し、Jリーグやラグビートップリーグなどの試合、小中高生のサッカー・ラグビー大会、グラウンドゴルフ大会、子どもたちへの芝生開放などに加え、まちににぎわいを生み出すコンサートやイベントの開催など、市民に夢と感動を提供できるスタジアムを整備します。建設予定地は、JR小倉駅から徒歩7分の小倉北区浅野三丁目。観客席数は約1万5,000人(将来的に2万人以上に拡張可能)。Jリーグ平成29年シーズン開幕に合わせ、平成29年3月の供用開始を目指しています。

## ● 北九州マラソン 2014 を開催

市制50周年記念事業のフィナーレを飾る「北九州マラソン2014」が開催されました。本市初のフルマラソンとして、1万人を超えるランナーと4,700人のボランティアが参加し、28万人の市民が沿道から熱い声援を送るなど、スポーツを通じてまちがひとつになり、大いに盛り上がりました。また、参加ランナーやボランティア等から継続開催を望む声を多数いただき、次回大会の実施も決定されました。

## 北九州市の最近の受賞歴等

### ● 第2回プラチナ大賞及び経済産業大臣賞をW受賞

平成26年7月、プラチナ構想ネットワーク(会長:元東京大学総長 小宮山宏氏)が主催する第2回プラチナ大賞(応募総数:58件)において、本市から提案した「都市間連携を通じたアジアのグリーンシティ創造」が、「大賞」及び「経済産業大臣賞」を受賞しました。

プラチナ大賞は、イノベーションによる新産業の創出やアイデア溢れる方策などにより、社会や地域の課題を解決している自治体や企業などの優れた取り組みに与えられるものです。



### ● ISGAN AWARD 2014 で世界のトップ10に入賞

世界の優れたスマートグリッドプロジェクトを表彰する ISGAN AWARD 2014 において、日本国内の次世代エネルギー・社会システム実証地域の4地域(横浜市、豊田市、京都府、北九州市)を含む世界15カ国40プロジェクトが応募する中で、北九州スマートコミュニティ創造事業が、アジアで唯一入賞(Finalist)しました。

北九州スマートコミュニティ創造事業の「市民のスマートグリッドへの関わり」が評価されたものです。



### ● 2013年アジア都市景観賞を受賞

関門景観を本市と下関市の両市民が共有するかけがえのない財産とし、それを守り、育て、将来に継承していく取り組みが評価され、「関門海峡が結ぶ景観に配慮したまちづくり」が2013年アジア都市景観賞を受賞しました。

### ● 第6回ビオトープ顕彰(2013年度) 協会会長特別賞を受賞

地域の生物多様性の保全、またそのための環境学習に寄与するため、ビオトープの普及・持続技術の向上を目指し、NPO法人日本ビオトープ協会が年度ごとに優秀なビオトープを表彰するビオトープ顕彰において、「北九州市響灘ビオトープ」が「協会会長特別賞」を受賞しました。